令和6年度 第2回 東海村スポーツ推進計画推進委員会会議録

1	開催日時	令和7年3月13日(木) 18時30分から20時15分まで
2	場所	東海村歴史と未来の交流館 活動室2
3	出席者 (敬称略)	<p><委員> 松坂晃, 高橋和将, 皆神美由紀, 塚原美光, 黒羽根史朗, 小泉親彦, 富岡孝明, 田村寿俊, 久保田泰世, 石丸美代子, 海老原強, 菅谷恵美, 川野翔大, 竹下浩一</p> <p><事務局> 河西徹雄(教育部長), 深見孝志(生涯学習課長), 豊嶋潤(生涯学習課課長補佐), 川崎彰利(生涯学習課主任), 佐藤大樹(東海村文化・スポーツ振興財団スポーツ振興係係長), 佐川順子(東海村文化・スポーツ振興財団スポーツ振興係専門員)</p>
4	欠席者 (敬称略)	本多早紀
5	公開又は 非公開の別	公開
6	非公開の理由	—
7	議事	(1) 第2期計画に基づく令和6年度事業報告について (2) 第2期計画に基づく令和7年度事業計画(案)について
8	配布資料	資料1 第2期東海村スポーツ推進計画(進捗管理シート) 資料2 第2期東海村スポーツ推進計画(活動指標) 資料3 東海村健康づくり計画推進委員会との意見交換会(報告) 参考1 第2期東海村スポーツ推進計画パンフレット 参考2 第2期東海村スポーツ推進計画令和6年度関連事業報告(QRコード)
9	発言内容	(1) 第2期計画に基づく令和6年度事業報告について (2) 第2期計画に基づく令和7年度事業計画(案)について ○ 事務局より配布資料の説明…資料1, 2 委員) 東海村は, 中学校運動部活動の地域クラブ化が他自治体よりも進んでいる。令和7年度も地域クラブ化の推進に向けて,

新たな種目の試行的な実施等順次取り組んでいきたい。また、中学校の教員で引き続き指導に携わりたいという熱い想いをもちの先生もおり、地域クラブの活動で小中学校の施設を使用するケースも増えてくるので、東海村全体で協力しながら生徒の生涯スポーツの環境づくりに向けて取り組んでいきたい。

委員) 地域クラブでの一貫性のある指導環境は非常に望ましいものである。日本は、部活動という仕組みの中で運動・スポーツに取り組む中学生の割合は高い数値となっているが、無料で強制的に、人(家庭)によっては内申点のために参加しているという一面もあるため、部活動の地域クラブ化によって無関心層がさらに運動・スポーツから離れることも懸念される。地域クラブの運営については、子どもの居場所づくりという意味も含めて、総合的に検討していけるとよい。

委員) 幼保から小学校2年生くらいの年齢で運動・スポーツが「苦手」と認識することが多いと言われている。そして同時に、「苦手→嫌い」と変換されてしまう。「運動・スポーツは、得意な人のもの」という考え方が固まってしまう。

委員) 今年度、スマイル東海で「食」をテーマにした講演会を開催していただき、ジュニアスポーツ選手のからだ作りにおける栄養補給の重要性を再認識することができた。聴講者も非常に多かったので、村民のニーズが高い分野だと感じた。継続して開催してほしい。

委員) 民間事業所と自治体が連携し、管理栄養士等民間事業所の人材を活用して健康・栄養に係る普及・啓発に取り組むという事例がある。民間事業所のノウハウや人材を活用し、また、自治体と民間事業所双方のミッションをクリアするwin-winの関係で取り組みが広がっていくかたちを目指せるとよい。

委員) スポーツ少年団本部事業の夏季大会について、単位団からニーズ調査を行ったとあるが、令和7年度に向けた事業計画は具体的にまとまっているのか。

事務局) ニーズ調査の結果を踏まえてプログラムや開催時期等、事務局としての考え方を取りまとめている。スポーツ少年団の

活動の意義等も含めて各単位団と意見交換していきたい。これまでは宿泊学習等の団体行動を通して各単位団間の交流を図ってきたが、コロナ禍を境に参加者が激減してしまった。プログラムの大胆な見直しも視野に入れながら、実施に向けて検討していきたい。

委員) グルービー樫の木公園の利用はどのような状況か。運動・スポーツ事業でも活用できるとよいのではないか。

事務局) 利用者数をカウントしているわけではないが、グルービー樫の木公園は、ボール遊びが認められている施設であり、現在も週末は多くの親子連れ等で賑わっている。運動・スポーツ事業でも活用できると考えるが、雨天時の対応等、事業実施に際しては課題もあると考えている。

○ 事務局より配付資料の説明…資料3

委員) 健康づくり計画推進委員との意見交換会に参加したが、改めてこれまでの運動・スポーツに関わる活動を振り返るきっかけになり、有意義な取り組みだと感じた。

委員) 健康づくり計画推進委員は月1回、ウォーキングのイベントを開催している。スポーツ推進委員も毎月1回、ニュースポーツのイベントを開催しているので、連携しながら取り組んでいけるとよい。

委員) ニュースポーツは、子どもや高齢者でも参加できるよう、コミセンや公園での開催等参加へのハードルを下げる働きかけや工夫ができると、取り組みに広がりが見られると感じている。

委員) 意見交換会では、情報発信に対する課題も挙げられていた。デジタル1本槍ではなく、紙媒体の特性も考慮し、(潜在的含む)参加意欲のある方に届く広報PRを強化していきたい。

委員) 高校を卒業すると(高校で運動部活動に入らない生徒は中学校を卒業すると)、自分ができそうな運動・スポーツをするためにはどこに行けばよいか分からないのだと思う。そういったニーズに応える情報発信を模索していきたい。

委員) 体力測定会など、自身の体力を認識・自覚してもらう機会を提供していけるとよい。

事務局) 中学校運動部活動の地域クラブ化は、休日の活動の幅を広げるものである。平日の部活動の種目に関わらず、様々な活動の選択肢を提供できるようにすることに意味があるので、中学生に限らず、「いつ、どこで、何ができるのか」という情報発信は非常に重要だと感じている。

委員) 他自治体では、公共スポーツ施設でのイベントや教室等のインフォメーションが充実していると感じている。村内の公共施設でももう少し工夫できるのではないか。

委員) スポーツフェスタを屋外施設で開催するなど、屋外でのびのびと運動する気持ち良さを村民に体験してもらう屋外イベントの開催を検討していきたい。

委員) 事業を「運営する人」「協力してくれる人」をどう増やして巻き込んでいくかというところが肝要である。スポーツフェスタ等のイベントに参加してもらいながら「支える人」を増やすという仕組みが一つ考えられる。自分が楽しいと思うことには主体的に参加でき、また身近な人にもおススメできる。そこから人との関わりが増え、地域を知り、まちの賑わいづくりにつながるものとする。

委員) スケートボード等、アーバンスポーツのニーズが高まっていると感じているが、村内に施設を整備する計画はあるか。

事務局) 将来的に検討の余地はあると考えるが、現在のところ施設を整備する計画はない。住宅地の近接地域は騒音問題も懸念されることや、自治体ごとに施設を整備する必要性についても検討が必要である。しかし、アーバンスポーツに対するニーズが高まっていることは実感しているところである。

委員) 運動・スポーツの実施率向上に向けた方策として、事業参加者に提供する景品の充実化も方策の一つと考えられる。

委員) 私は小学生の時にサッカースポーツ少年団で活動していたが、遠征を伴う大会が多く、経済的な面や時間的拘束等保護者の負担が大きかったため、1年で退団することになった。様々な視点から複合的に考えていく必要はあるが、特に子どもの「やりたい」を叶えてあげられる環境を作っていきたい。

	<p>委員) スポーツ少年団では、現在も変わらず保護者の負担は大きい状況である。受益者負担という考え方がベースにはなるが、公共性が高い活動には公的支援も必要だと考える。</p> <p>委員) 中学校運動部活動で全国大会が開催されなくなる種目が増える流れがある。保護者や指導者、子どもの負担を減らす取り組みだと思われるが、目標がない中での活動は子どもにとっては望ましい環境ではない。中学校運動部活動に限らず、運動・スポーツ実施者のモチベーションを維持・向上できるような仕組みを作っていけるとよい。</p>
10 今後の予定	次回委員会は、令和7年度5月に開催予定。